

ドクターの話が聴きたい

## DOCTOR'S INTERVIEW

vol. 34

世界最先端の医療を  
地域にお届けすることが、  
私たちにできる最善の  
社会貢献であり、喜びです。

を伴うからこそ、先輩や同僚、患者さんから学ぶ謙虚さが必要という教え。患者さんとよく話し合い、その課題を丁寧に解決していけば、やがては世界に通じる技量を身につけられるのです」。

医療は総合芸術。感性を磨き、チーム力を高めてこそ一流

「蘭学の里」、大分県中津市で『職業を通じて社会に奉仕する』をモットーに、医療から介護まで包括的なケアを行いながら、世界最先端医療を展開する、川島整形外科病院。その取り組み、人材育成などについて、理事長の川島真人先生に伺いました。

患者さんから学ぶ謙虚さが地域の医療を向上させる

「地域貢献に値する医療は、『地方なりの医療』では成り立たない。患者さんが抱える問題を掘り下げ、高水準の医療を行うことが大切です」。川島先生は、骨髄炎の標準治療にもなった、骨にチューブを入れて消毒薬で洗浄する「川島式局所持続洗浄」の発案者。これにより骨髄炎の再発率を激減させることに成功した医師として知られています。また、高圧医療によって骨髄炎の治療や潜水士の骨壊死



の鑑定を世界的に行い、75年に潜水士の骨壊死を日本初の労災認定に導きました。整形外科の領域で高気圧酸素装置を用いて治療率を上げる高い技術が評判となり、国内外から延べ28万人が治療に訪れています。先生の座右の銘は、大江雲澤の医訓『医は不仁の術、務めて仁をなさんと欲す』。『医療は危険

### PROFILE

医療法人玄真堂 川島整形外科病院理事長

#### 川島真人先生

かわしま・まひと 1969年東京医科歯科大学医学部卒業後、虎ノ門病院整形外科専修医、九州労災病院整形外科副部長などを経て、81年川島整形外科医院を開設。日本整形外科学会専門医、第3回日米宇宙・潜水・高気圧環境医学合同学会会長、大分県病院協会会長、日本高気圧環境医学会副理事長、東京医科歯科大学臨床教授、大分大学医学部非常勤講師など。

「医療人は個性が強過ぎる傾向も。個性を伸ばしつつ、チームの調和を大切にすることが医療の質を上げると、日々指導しています」。海外研修や感性を磨く趣味の部活動、敷地内に保育施設を作るなど職員が安心して働け、成長できる環境づくりにも力を注いでいます。スタッフも一丸となって、公民館での健康セミナーや子ども図書館の設立などのボランティア活動を盛んに行っています。これらの取り組みは、社会貢献できる病院、地域医療の向上へと実を結んでいます。

### 「蘭学の里」中津の医学史を後世に伝えたい

川島先生のライフワークは、地元中津の医学史の調査研究。「江戸時代後半、中津藩が蘭学を支援したお陰で『解体新書』を著した前野良沢や九州初の人体解剖を行った村上玄水、大江雲澤、福澤諭吉ら多くの蘭学者や医師を輩出し、日本の近代化に大きく貢献した。その歴史と文

化を後世に伝えたい」。熱心な調査研究の過程で12代続く医家、村上家から献体解剖の記録など3000点もの史料を発掘し、これらを展示、保存する資料館の設立に尽力。96年に市の運営による村上医家史料館が、04年には大江医家史料館が開設され、現在も一般公開されています。



医学史に関する著書を現在8冊出版。最新刊は、日本で2番目の女性歯科医である実母川島ミツエさんをテーマにした書。



高気圧酸素治療装置。2~3気圧に加圧した純酸素を吸うことにより、酸素不足に伴う病気やけがを速やかに改善。

原田和子=文 神原洋昌(ライト写真場)=撮影

2010 Autumn Doctor's eye 52